

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

TEL:06-6493-3731

Mail:info@sonodaen.or.jp

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみinnで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見い出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑



園田苑にやって来た人たち、隣国の福祉界で大活躍

理事長 中村大蔵

半島とはいえ、気候は大陸性である。8月27日、降り立ったソウル・キンポ空港の外はもう秋の気配。夏の終わりとともに秋が足早にやって来る。大陸性気候の特徴である。

東北大震災で訪問が途絶えていた韓国テジョン市にある聖愛老人療養院からは、「いつ来るのか」との問い合わせが何回かあった。同院とは1994年に友好協力協定を結び、毎年のように相互訪問を繰り返してきた。

遅きに失したが東日本の被災者支援へのお礼もしなければならず、協定締結20周年を迎える今年、次なる交流課題を相談すべく今回の訪韓となった。同院の郭院長は福祉館館長になり、今年4月から韓国第四の都市テジョンの社会福祉協議会の会長に就任していた。

その郭さんを紹介したのはソウル神学大全教授である。彼は関西学院大学院に留学していた頃、園田苑を会場にして開かれた地域福祉の公開講座（1992.2.9 阪神医療生協主催）に出席した。娘の保育園「愛児園」への行きかえりに苑の看板を見たのがきっかけである。その彼が今年4月からソウル近郊のシフン市ボランティアセンター所長に就任している。

聖愛院で打ち合わせ中に、郭さんが突然電話をした。韓国第三の都市テグにいるヨンナム大学の李教授である。彼は阪神淡路大震災後、グループハウスにいち早く見学に来た研究者の一人であった。李教授は「明日テグで院生の研究会があるから来ないか」と誘った。昨年1月31日～2月3日まで、同大学院生が関西にある老人福祉施設を訪問した記録がきれいな冊子になっていた。その表紙は園田苑の入居者光本貞淑さんを囲んだ写真だった。

彼も今年4月テグ市社会福祉協議会の会長に就任した。園田苑との関わりが深い隣国の人たちが、それぞれ民間福祉機関の要職に就いている。嬉しい限りである。これからの交流が一段と楽しみである。何を言おうと民際交流あつての国際交流なのだから。

特養家族会 初めての総会

～「この会があつて良かった」と言われるように…～

2014年7月26日（土）に昨年家族会が発足して初めての家族会総会が開かれました。みなさんお忙しい中、また遠方から15名のご家族の方が出席してくださいました。



藤原会長から「この一年間悩みながら家族会運営をしてきました。皆さんの意見を聞きながら、この会があつて良かったな！と思われるようになりたい」と挨拶があり総会が始まりました。私の拙い司会進行のもと、昨年の活動報告、収支決算報告、次年度役員選出、次年度活動計画案などを説明し、参加者全員の拍手をもって承認して頂きました。

その後の交流会では、自己紹介と共に、これまで在宅で介護されていた“想い”や入居されてからの“今の想い”など意見交換が行われ、とても良い交流会になりました。

発足して2年目。特養の職員としてこの交流会や勉強会、苑の行事への参加などを通して、入居者ご本人の“想い”や常に見守っていただいているご家族の“想い”に寄り添っていく事が大切だと思います。またその一つひとつの積み重ねがそれぞれの信頼関係を築いていく事になると思います。



家族会のみなさん！まだまだ至らない点は多々あると思いますが、会長がおっしゃったようにご家族が「この会があつて良かった」と思っただけの様に私たち職員も頑張りますので、これからも様々なご意見を聞かせてください。

特養 生活相談員 大上 茂利

被災地の今 ～心新たに～

一泊二日被災地老人施設訪問へ参加

7月23日朝、久しぶりに仙台空港に降り立った。

同行していた物部センター長が、「七夕祭りなんだね」と言いながら、空港内ロビーにかかっている七夕飾りの写真を撮っていた。

最初に仙台空港に降り立ったのが、震災後3ヶ月。仙台空港もまだ震災の傷跡生々しく、立ち入り禁止区域がいたるところにあった。仙台市内からは、バスだけが交通手段だった。

二回目は、震災後7ヶ月後。空港は完全に平常化していた。この時、仙台市内からのバスはなくなって、電車が復旧していた。

そして、三回目。今回は、県社協からの紹介の「夢創造の会」主催の一泊二日被災地老人施設訪問の企画参加のためである。

私自身2回現地に入ったものの、かろうじて被災を免れ、後方支援をしていた施設へのかかわりはあったものの、実際に被災した施設を知らなかったし、これからの被災地支援についても考えてみたいと思っていたこともあり、かなり強行なスケジュールに不安はあったが参加することにした。

参加者は、神戸から光明苑、須磨シニアコミュニティ、尼崎から博寿苑、園田苑から各2名が参加した。

別動隊として、和歌山からケアハウス「はまゆう園」、グループホーム「はまゆう園」、「はまゆう保育園」の4名が現地で合流した。

統率する川端俊次さんは、数日前から現地入りされていた。



閉上地区「うらやす」へ

9時30分に現地(仙台空港)で集合すると、わざわざ「うらやす」の佐々木施設長が出迎えてくださり、引率して下さった。

仙台空港から市街地を約30分車を走らせると、テレビでもよく出てくる名取市閉上地区が目の前に広がる。

閉上地区にある「特養うらやす」に到着した。特養のまわりは、草が伸び放題に伸び、ここだけがいまだに時が止まっている感じがした。

玄関には、祭壇が設けられていた。たくさん

花が手向けられていた。

全館1階の施設で、その時の水の痕が今もくっきりと残っていたのを目の当たりにして、やっと気持ちに緊張感が出てきた。

今もその当時のままの施設を見学し、色々なお話を聞くことができた。

職員がカウンターに上がり、流れるお年寄りを両手で繋ぎとめ、持ち上げ、何時間もそのカウンターの上にあった。

水が引いてから、暖をとるために、サラダ油を衣類に染ませて燃やした。



小さな川のすぐ向こうに隣接した老健があったのにそこに行くのに、どれだけの時間がかかったか。

折角老健に入ったのに、警察から、「ここは、避難場所ではないから、避難場所である中学校に避難を」と言われ、そこで、お年寄りが亡くなってしまった。行かなければよかった・・・等鬼気迫る話に圧倒されっぱなしだった。

見学のあと、平成25年9月に再建された「うらやす」に伺いそこで、レクチャーを受けた。そこは、鉄筋コンクリート造4階建てのまるでホテルのような建物だが、場所を内陸部に移し、以前の平家建での限界を教訓とした建物にしたと説明があった。

備蓄品は、3日と言われていたけど、7日は必要。米と味噌と水があればいいという。

今一番の課題はなんですか？とお聞きしたら、すかさず、「職員教育です。今の職員の中で、震災を経験してきた職員と全く経験していない職員が半々くらいになっていて、そこをどう埋めていくかが課題です」と返ってきた。前述した「サラダ油を衣服に染ませて燃やすなんて、よく考えたなと我が職員ながら感心しています。瞬間、瞬間にそういう機転を生み出せる職員を育てないといけない」と佐々木施設長は言います。

訓練も大切、だけど、考えることのできる職員を育てること・・・これこそ私たちにとっても課題。

「うらやす」では、今も全国の特養からの職員支援を受けている。まだ？って思うかもしれないけれど、それってすごいなと私は思う。

予定時間をかなりオーバーして、私たちは、県庁へ向かった。(次回へ続く)

施設長 田中 千賀子

車の中で氷を食べる

～こさぶの墓参り 顛末記～

常夏の炎天下の中、佐藤さんの愛犬こさぶの墓参りに行くことになった。

その日の太陽はジリジリと僕たちを照らす午後3時。麦わら帽子をかぶりお花と線香を購入し、額田のお墓に眠るこさぶのもとへ…。

「暑い…。暑いなあ…。」と暑さで中々会話も弾まない中「ここまっすぐ行った所や。」と1年ぶりの墓参りになのにこさぶのお墓を覚えておられた。

こさぶのお墓は日陰になっており風も心地よく気持ちの良い場所だった。

佐藤さんはまだ線香もお花も添えていないのにお墓に向かい手を合わせ始めたので「佐藤さん、線香点けるから待ってよ（笑）お花もまだやのに（笑）」と言ういつもの調子で「ああそうかあ。わかった。」と仰りじっと待っていた。僕はマッチで線香に火を点けようとするが風が強くてなかなか火が点かずマッチを無駄にすること十数本…4本残った所でようやく火が点いた。その間もじっとお墓を見つめていた佐藤さん…。

お花を佐藤さんに渡し、佐藤さんがお墓に備え手を合わす事…約5秒…。

「暑い。かなんわ。」と口を開く佐藤さん。凄く真剣な表情で待ってたのに早いな!!と思いきわず「ええええ!!早くない!!（笑）もうこさぶにお祈りしたの?」と聞くと「うん。したよ。もう行こう。」と言う佐藤さん。

予定では墓参りの次は園田駅前におやつを食べに行くというプランだったので車を走らせ駅前へ。駅のだ真ん前のたこ焼き屋に行く事に…。

「佐藤さんたこ焼き食べるう?」と聞くと「たこ焼き?食べた事無いからわからへん。食べてみたい。」と仰るので購入することに…。店員さんも佐藤さんが食べると知りタコも具も細かく刻んでくださり食べやすい様にして下さいました。



たこ焼きを焼いている店員さんをじっと見つめていた佐藤さんが突然「暑いなあ。昔はこんな日にはよくかき氷を食べたもんや」と仰られたのでかき氷も購入する事に…。いろんな味があり「マンゴー味が良いなあ」と選んでおられたがちょうど売り切れだったみたいで結局ブドウ味を選ばれました。ちょっと残念そうだったけど、出来上がってみると果肉がどっさり乗っており、とても満足そうな表情を浮かべておられました。しかし一番びっくりしたのが「熱いから車でクーラーつけて食べる」と言われた事です。僕も店員さんも「ここで食べたら良いのに」と言ったが持って帰ると聞かず…結局車中で美味しそうにかき氷を頬張っておられました（笑）

「あんたも食べるかあ?」と言われたが「いや…（笑）佐藤さん僕運転中やん（笑）せっかくやねんから全部食べてよ（笑）」と言うと「そうか。」と言われそのまま帰苑し3Fに着き次はたこ焼きを食す佐藤さん。

「これうまいなあ。うまいわこれ。」と爪楊枝を不器用に扱い、召し上がられる佐藤さんがとても可愛く思えた午後4時過ぎ。「食べるか?」と爪楊枝でたこ焼きを差し出して下さる。「いいよ佐藤さん。初めてなんやろお?全部食べてよ（笑）」と言うと「いいの?」と仰り4つ召し上がられる。お腹が一杯になられた様で満足気でした。

この日の撮った写真をすぐに現像しお渡しすると、とても嬉しそうに持っておられじっと眺められていました。ヘルパーが「佐藤さん見せてよお。」と言っても誰にも見せなかった佐藤さん。なんか可愛いなあって思ったけどその後すぐにカウンターに放置して忘れていた所がもっと可愛いなあと思った常夏の涼しげな夕方でした。

特養3階ヘルパー 川口 豊



つづれ草紙

園田苑式そうめん流し!!



実習 4 日目、人生で初めて見たそうめん流しは利用者さんの笑顔で一杯でした。

思わず立ち上がる方や、お椀いっぱいに入ったそうめん満面の笑みの方、実習が始まってまだ緊張していた私の心も、皆さんの笑顔とそうめんと一緒に流してくれました。楽しかったー!!

関西保育福祉専門学校 実習生 河嶋 光代

小中島公園の夏祭り!

7月26日、地域主催の夏祭りが小中島公園でありました。毎年恒例ですが、今年も夏祭りに参加してきました。

今年は田中五郎さんと出掛けることになったのですが、夕食を食べてからの出発だったので少し遅れることに・・・。

着いたら、出店の前は大盛況の行列・・・団子より花! 「五郎さん、踊ろう」と、2人でやぐらに向かいました。

大人の部の音楽がスタートすると、五郎さんも知っている歌だったので、口ずさみながらやぐらの周りを回っていました。



すると、五郎さんが「あんた、車椅子押すの大変だろ」と、車椅子から立ち上がり歩き始めたのです。

いつも、長い距離は歩いている方なので、こっそり秀石が影武者となり、五郎さんのバランスを取りながら、何周もやぐらの周りを歩きました。何度も、五郎さんに「しんどくない?」と尋ねても「大丈夫!」と、2人で踊り狂いました。

気が付けば、園田苑からの参加者は私達だけ! 支部の方から「早う、帰り!」と言われる始末! なんと、大人の部の全曲を制覇してしまったのでした! 五郎さん、楽しかったですね! 来年も行きましょうね!

通所介護 主任 秀石 直美



『がんばらない・あせらない・あきらめない』
～タマさんの優しさに心からありがとう～



8/1から8/15の『タマさんの個展』が無事終わりました。

開催期間中、芳名帳に記入してくださった方だけでも100名近くになりました。

お越しいただいた皆様には御礼申し上げます。

毎朝8時、お母さんに逢いに来られる工藤さんは、まだ電気のついていない部屋の作品を何度も何度も優しいまなざしでご覧になっていました。

「この絵かわいい」「この言葉が素敵」と絵葉書を持ちかえられる方も何人も。

「これ売ってくれたら買うのに。大事にするのに・・・」とおっしゃってくださる方も一人やふたりではありませんでした。

入居者の森さんの息子さんは、タマさんと直に逢い、今病氣と闘っているお姉さんにと、メッセージを書いてもらわれました。

『がんばらない・あせらない・あきらめない』がその言葉です。

この言葉はタマさんが、自分の甥が昔入院していた時に、お見舞いに来る人みんながみんな「がんばれ」って言うのがつらくて、その時の想いを書いた言葉だそうです。



「がんばらなくていいけどあきらめないで」というメッセージは、実に深いと思うのです。わかっているようで、やってしまいがちな・・・「がんばれ」ってついつい言ってしまう私たち。「がんばらなくていいよ」という介護もありだと・・・思えてなりません。

森さんのお姉さんは、今、その言葉を胸に病氣と闘っています。

開期中に新しい作品を入れ替えてくださったタマさんの優しさと責任感に感動と、この個展が出来たもう一人の影の功労者の足立さんのパワーに頭の下がる想いです。



お二人に心から感謝です。

施設長 田中 千賀子



開始に向けて準備！

～24時間地域サポート型特養～



地域に貢献することを目標に昨年度より開始された兵庫県独自の事業「地域サポート型特養」に園田苑も名乗りをあげ、認定を受けました。9月から「地域サポート型特養」という新事業を始めるにあたり昨年度より事業を開始されている伊丹市のオアシス千歳で、研修させて頂きました。

オアシス千歳の相談員さんの訪問活動に同行させていただきました。実際に同行させていただいて、ご利用の方が週に1度の訪問をととても楽しみにされているように感じました。



1週間の近況、テレビの話、などいろんなお話されていました。そういった会話の中から「食欲がなくて」「お弁当を取ろうか考えている」「サプリメントはどうだろ？」などなど、さりげなく出てきた会話の中にあるキーワードを素早く汲み取られ、アドバイスをされていました。すごい！

またオアシス千歳の相談員さんの巧みな話術に、ニコッと笑顔になられる独居の高齢者の方々。「1日1回は笑っていただけるように笑いを磨かなければなりません！」

「淋しい」とおっしゃられる方はお一人でしたが、それぞれの方が「何も言わず」在宅で、一人で孤独と戦う高齢者の方だと思います。その高齢者に寄り添う、オアシス千歳の職員さんたち。

園田苑でも、在宅で孤独と戦う高齢者の方を、暖かく見守り、安心感を与える「地域サポート型特養」を目指してまいりたいと思います。



先日、園田苑職員対象に地域サポート型特養の説明会を三浦が行いました。

制度の概要や、園田苑での方針などを説明し、職員の理解と協力によって成り立つこの事業への思いをアツク語りました。

園田苑 三浦 佳幸



コック服で登場

～デイどんぶりバイキング～

8月7日木曜日、大好評のうちに幕を閉じた選べるどんぶりバイキング。多めに炊いていたご飯が完売するほどしっかりと召し上がっていただき、みなさん満面の笑みで「熱々ですごく美味しい！！」と誰もが言うてくれました。



今回の企画は厨房さんと「何かしたいね」という立ち話からはじまり、大変だけど・・・目の前でしあげてくれる出来立てのどんぶりが提供できたら喜んでくださるんじゃない？と計画を練り、実現いたしました。

朝から「何どんぶりにしようかな」「親子丼がいい！」と会話が弾みます。すると遠くから「えびや！」と佐藤さんの声。「わかりました。佐藤さんはえびのかきあげ丼ですね？」とホワイトボードに書き込みますが、皆様に順番に伺っていると、ソファから立ちあがって近づいてきてくださり、「わしはえびやで」とホワイトボードを覗いてくださいます。とても楽しみにして下さっていました。



さて、厨房の竹林さんがコック服で登場！みなさん興味津々で調理をご覧になられ、自分のどんぶりはまだか？とワクワクされています。もちろん、佐藤さんもそのお一人でした。どんぶりが出来上がった時の笑顔は忘れません。

お1人分ずつ丁寧に仕上げてくださいったどんぶりを残される方はどなたもいらっしやいませでしたし、親子丼、かつ丼、えびのかきあげ丼、と特別なメニューではありませんが、「こんな御馳走何年ぶりやろ！」と喜んで召し上がってくださる姿を拝見して、食の大事さを再確認し、これからも厨房さんのお力をお借りしながら協力しあい、継続していきたいと思いました。

デイサービス 有山 幸

理事長乱入にカンパイ

～グループハウス ビアガーデン～

園田苑グループでは、夏に入ると怒涛のようにビールを飲む機会が襲ってくる。やれ町会の夏祭りや阪神医療生協の各支部、そして本体園田苑のビアガーデン9月にはグループハウスの周年行事10月には園田苑の周年行事、12月は年末行事、1月は言わずとした年始行事などなど。

どこまで飲むねんと聞かれば、いや！お年寄りのためやから！と言い訳はばっちり！？

しかたない。そこまで飲むのならばビヤサーバーを使ってめっちゃうまい生ビールをガンガン行こうと会議で決まって職員の期待はいやおうなしに高まるばかり。

ところがどっこい、ビール屋さん？に依頼すると、何言ってんねん、この季節はどこも予約でいっぱいやで、甘ちゃんやなーと一蹴されて粉碎されてしまう！始末。

しゃーない、いつもどうりの缶ビールにふりだしや。

肉！肉！でBBQや肉は近藤さんからやで、それから、初登場 土手焼きや！！いいすじ肉を味噌で甘辛く、、、と無理やり上げるテンション。

そして当日いつものごとく場を荒らす理事長から、大人5人追加で連れて行くからよろしくの連絡に職員啞然。

先手を打って約束の6時前にBBQで焼き肉をお年寄りに食べて頂こうと5時30分から始めるがうまく火がいこらない、そこに6時前に台風の目の理事長達が乱入、そして、いつものように、夕涼み会は単なる飲み会となり職員達には戦場になる。

さんざん乱入理事長にブーイングを入れながら、その夜22時までGH職員と入居者の田中さん松川さんは飲み続けました。

くそ一周年行事こそはビヤサーバーを使ってめっちゃうまい生ビールをガンガン行くからなと、くだをまきながら、お年寄りのためと未来に希望を繋げる職員達でありました。

グループハウス尼崎 笠松 俊男



皆の熱い想いが作った一つの物語～赤木アサさん～ ～ショートステイ奮闘記②～

赤木アサさんは第三診療所系列のデイサービスとデイケアを利用されながら、月に1回園田苑ショートステイを利用されてきました。誤嚥性肺炎から2か月入院され、在宅での食事にも課題を抱えながらの退院となりました。

3階でショートステイをご利用中にも食事がうまくすすまず、痰がらみを度々繰り返されていた赤木さん。利用再開をして、また園田苑で誤嚥性肺炎を繰り返してしまったら…。皆に不安が募っていました。

でもここで御利用を中止してしまってもいいのか？ご家族さん、ご本人の、もう一度在宅で頑張りたいというお気持ちに、園田苑として尽くせたのか？もう一度赤木さんの為の園田苑ケアを一から作り上げられないか？特養の職員と話し合い、日中の生活を2階でお受けすることにしました。



お迎え当日、2階職員の上野ヘルパーが夜勤明けと一緒に同行。デイサービスゆうゆうさんで車椅子を預かり、責任者の古関さんに挨拶をして戻ってきました。深津と上野の、腹をくくった顔が(または不安そうな顔が！?)古関さんに伝わったのか、「夕食の時にでも伺いますよ」とご配慮いただき、ほっとする私達。

昼食時、事前の担当者会議で話し合った嚥下確認装置(ハンズフリーメガホンの新しい使い方!)を装着し、嚥下を確認しながら食事を提供します。介助する深津と、ドキドキしながら見守る2階職員。休みだった山崎副主任も駆けつけ、夜勤明けの上野ヘルパーも残って固唾をのんで見守ります。食事形態が変わり、痰は絡まないが食事がやはり

すすまない…。デイサービスでは完食していると聞いていたのに…。

その日の夜、2階山根ヘルパーがドキドキしながら介助をしようとしたその時。ゆうゆうの古関さんが登場!「アサさんとは10年近くの知り合いで～」 「僕が怖いんですよスパルタだから～」 と言いながら介助をされるとアサさんは目をパッチリ開いて口も開けられ見事完食! その表情は古関さんを怖いわけではなく、二人の信頼関係なんやと思いき知らされました! そうか、食べて欲しい思いばかりが先行して、アサさんとの関係作りを二次にしていた。だから今までも園田苑では痰が絡んでいたのでは。。

2階の職員はまずアサさんと関わることから始めてくれました。車椅子に座らせっぱなしにしない。ソファに座ってテレビを見たり話をしたり。人と人の関わりが始まり、通りすがりや食事中にも声をかけ話をし、常に近くにいる安心感を作ってくれました。

翌日の朝は半分程度しか召し上がられなかったアサさん、それ以降は職員を見ながら、全量食べてくださるようになりました。

嚥下確認装置や、最新の押し出し式吸い飲み。介護に使われる用具は日々進歩し、私達介護者を助けてくれます。でも何よりも、相手に安心して介護を受けてもらうことが大切で、そのためには関係の構築が必要なんや! そのことを気づかせてくださった赤木アサさん、ゆうゆうの古関さん、ありがとうございました。

2階の職員の皆の熱い思いが、アサさんを、皆を動かした、一つの物語でした。→次号へ続く。

通所介護/短期入所生活介護
生活相談員 深津智子



(参考) ハンズフリーメガホン

はまってまいそう… ～いざ、ボートレースへ～



待ちに待ったその日はやって来ました。8/14(木)尼崎ボートレースへ行きました。(実はこの企画2回お流れになっています。)

松本明雄さん・杠葉武則さんはこの日を首を長くして楽しみに待っておられました。が、その朝明雄さんは「行かへんで!」と言われました。何とか説得をして11時に、いざ出陣!

施設長と仲山さん(入居者ケイ子さんの旦那様)川口ヘルパーと藤中でいざ出陣!まずはお腹を満たしに美味しいうどん屋さんへ向かいました(店名は秘密です)。苑では普段お箸を使わないお二人がお箸を使われうどんを挟みすすって食べられていました。仲山さんもお満悦。お腹一杯です。

ようやくセンタープールへ到着です。全員「わくわくドキドキ」。ボートを見ながら券売機のある建物の中へ入ると「締切3分前!」と放送が流れてきました。みんな分からないまま大慌てでシートに記入したが明雄さんは「スタート練習みてからでないと賭けられない」と言われましたが、ここは何とか説得して好きな数字で賭けることに。それでも「見んと賭けるのはもったいない」と呟かれていました。杠葉さん・仲山さんは川口ヘルパーを頼りに決められていました。6レースは負けました。7レース、明雄さんはじっくりとスタート練習を見て「1-3や!!」と力強く言われました。私はすぐに乗っかりました。見事命中です。



施設長・明雄さん・藤中の勝ち組で記念写真を撮り、杠葉さん・仲山さん・川口は負け組さん、少々浮かぬ顔で記念写真「ハイ、チーズ」。勝ち組さんでみんなにお土産を買って帰りました。とても楽しかったと満面の笑みで仰って下さいました。

特養ヘルパー 藤中 京子



～新職員紹介～



前田 圭子
特養／ヘルパー

まだまだ到らない所もある
と思いますが、一生懸命頑張
りたいと思います。よろしく
お願いします。



園山 靖枝
特養／ヘルパー

年をくってありますが、がんば
りますので、よろしくお願
いします。



林 優華
特養／ヘルパー

明るく、楽しく、元気よく頑
張っていきます。
宜しく申し上げます。



長木 絵里
特養／ヘルパー

まだまだ到らない所も沢山
あると思いますが、一生懸命
頑張っていきたく思います
。よろしく申し上げます。



山之内 和宏
特養／ヘルパー

7月からデイサービス、9月
から特養で働かせて頂いて
おります。少しでも多くの笑
顔が見られるよう頑張りま
す。
特技はリフティングです。見
てみたい方は山之内まで！



小坂 耕治
特養／ヘルパー

8月18日に、介護職として
入職致しました。至らない箇
所が多々あると思いますが、
こつこつ頑張っていきます。
どうぞ宜しくお願い致します。



デイサービスからの募集です！

御自宅に使用されていないサイドボードはありますか？

デイサービスでは低めの食器棚を募集しています！年期の入ったもの程大歓迎です。

デイサービスで大切にに使わせていただきます。もちろんご自宅まで取りに伺います。



よろしく
お願いします

三ない運動が大きなテーマ

～オレンジカフェで消費者被害寸劇～



オレンジカフェの名称が変わってから2度目の開催となりました。

今回は、第二部で地域包括職員による権利擁護「消費者被害について」の啓発を行いました。先ずは、最近の被害状況や専門機関（尼崎市消費者センター）の紹介をさせて頂き、次に包括名物！！寸劇を披露致しました。講義を聴くだけではなく、実際に被害に遭ったケースを寸劇で見させていただくことで、よりリアルに消費者被害への理解が深まっていきます。始めは「まだ私は、頭がしっかりとしているから大丈夫」「そんな大金は持っていないから大丈夫」などと言っておられました。詐欺グループの巧妙な手口などを紹介していくと、「私ももしかして」「前にそんな風なことがあったかもしれない」などの声が聞こえるようになっていました。特に、認知症で独り暮らしの高齢な方は要注意で、本人様だけでは防ぎようがありませんが、地域（近隣）の方が、ちょっと気に留めて見守りや声掛けをして下さるだけでかなり防げることになります。

詐欺の被害は、高齢な方に限ったことではありませんので、皆さんが自分事のように受け止めて頂き、消費者被害に遭わない地域作りを目指して頂きたいです。

「園田南」包括の今年度の大きなテーマとして、《消費者被害三ない運動》を掲げています。○話を聞かない！○家に入れない！○契約をしない！



包括が中心となって地域の皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域作りを積極的に担っていきます。今後とも地域包括をどうぞよろしくお願い致します。次回、オレンジカフェでは、介護保険制度についての講座を行う予定です。是非、多くの皆様の参加をお待ちしております！



包括では、定期的に地域の住民・民生委員・ケアマネ・見守り推進員の方々向けに様々な介護・健康・福祉などの勉強会や啓発活動を行っています。ご希望がございましたら「園田南」地域包括までにご連絡下さい。

尼崎市「園田南」地域包括支援センター 社会福祉士 宇野 豊

～園田苑からのお知らせ～

9月13日（土）三線演奏会：2012年夏に引き続き、今年も沖縄民謡コンサートを開催して下さいます！園田苑デイサービスご利用者のお孫さんの演奏、曾孫さん3人の踊りの競演！
14時～15時園田苑2階食堂にて。



編集後記

この夏、10年以上ぶりに会った祖母。不思議な顔で「あんたどちらさん？」と言われる始末。

記憶にあった田舎の風景もすっかり変わり、ご無沙汰していた時間の長さを思うと申し訳なく思います。

高速で1時間。この距離が遠いか短いかは私の気持ち次第。（きんたろう）

最近知り合いになったおばあちゃん87歳。フラダンスとウクレレの先生をしているとのこと。色々な所に慰問されているようで、園田苑にも来たことがあるとか。ずいぶん昔とのことでしたが、先月号の出会いに引き続きびっくり。今朝も元気に自転車でお出掛けされました。（きりん）

自分がいないと成り立たない仕事ではなく、自分がいなくてもいつも通りのケアができるようにしたい。

それは決して自分がいらなくなったわけではなく、皆が成長したという証。それを作りたい。人に任せることを怖がらずに。信頼したい。（酒浴女）

久しぶりの東北は、見た目には随分復興が進んでいるように見えた。

ところが、あの当時のまま残された建物に足を踏み入れると、浸水の跡やカビ臭さや覆い茂った草むらに当時の感情を思い出した。

絶対にはいと言えない今だからこそ、しっかりと見聞きし、園田苑流の災害対策を行っていききたい。（野の花）